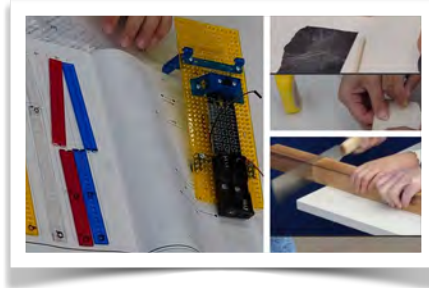
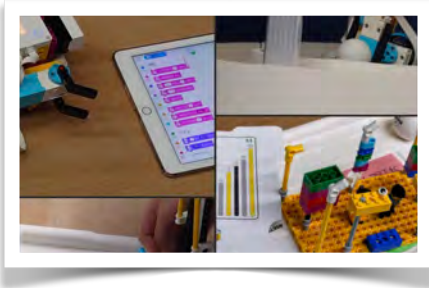


地域連携によるSTEAM教育ワークショップと指導者の育成

大分大学 教育学部 市原靖士



本事業の目的

•STEAM教育の指導ができる教員の人材育成とSTEAM教育に関連するワークショップを地方でも参加できるような場の提供を行うことである。文部科学省の今後の教育の見通しとしてSTEAM教育の重要度は増しており、それらの教育を受けた理系人材が社会に求められる状況にある。大都市部では、このようなSTEAM教育に関するワークショップや塾などさまざまな場面で指導者も多く、場の提供があり子どもたちもSTEAM教育を学ぶことができる状況にある。•しかしながら、大分県では、そのような場の提供がほとんどなく子どもたちはなかなかSTEAM教育を学ぶ状況にない。また、学校教育においてもSTEAM教育の導入が進んでいないが、大分県では、ほとんど進んでいない状況である。このことの原因としては、教員養成系大学での教育においてSTEAM教育の指導等を学ぶ機会がないためである。そこで、本事業においてSTEAM教育に関するワークショップを運営、企画、指導の実践を通してSTEAM教育を指導できる教員養成、人材育成をすることとSTEAM教育に関するワークショップを開催し子どもたちに場の提供をすることと考えた。

STEAM教育指導者
指導できる人材の育成を目的としワークショップの運営や企画についての検討



実践経験の場の提供
指導者として実践経験ができる場の提供を検討



児童生徒へワークショップの場の提供
STEAM教育を受けてみたい子どもたちに少しでも多くその場を提供できるよう検討

対象学年及び人数

大学生（指導者養成）

- 有志 2年生 7名
3年生 8名 4年生 6名
- 講義受講生 2年生 8名
3年生 5名 4年生 4名

合計 38名

参加学生に対する指導

- プロジェクト内容と意義についての説明
- グループディスカッション
- 教材開発コンペ
- 補助指導者としてワークショップ参加
- 実践指導

開催した主なワークショップ

•日出児童館	6回	参加児童 15名*6	90名
•関崎海星館	24回	参加児童 15名*24	180名
•O-Lab	4回	参加児童	50名
•O-Labプログラミング5回		参加生徒	75名
•国東宇宙港イベント	2回	参加児童	45名
•ホルトホール	2回	参加児童	30名
•大分大学公開講座	3回	参加児童	40名
•大分大学イベント	2回	参加児童生徒	30名

参加学生の感想

- STEAM教育ワークショップについてよくわかった
- 指導者の立場で子どもたちに教える体験ができ自信につながった。
- ものづくりやプログラミングなど普段の小学校での学習ではできないことを子どもたちに提供できてよかった。
- 自分でアイデアを出したことがワークショップの中で活かしていられたので嬉しかった。
- STEAMの面白さや奥の深さを子どもたちに体験してもらえたことができたと思う。
- 来年度も同じプロジェクトがあれば参加したい。
- 小学校教員になった時に大変参考になったし、実際に小学校で実践してみたいと思う。

